



## 新年のご挨拶

茨城県知事  
茨城県統計協会総裁

橋本昌

新年あけましておめでとうございます。  
皆様にはすがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃、統計行政にお寄せいただいておりますご支援、ご協力に厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみると、日本列島総不況といわれるほどの長引く景気の低迷や記録的な大雨による多大な被害の発生など、多事多端な1年がありました。

一方で、大河ドラマ「徳川慶喜」の放送により本県が全国から注目を浴びるとともに、ゆうあいピック茨城大会の開催、常陸那珂港への第1船入港など、着実に県政の進展をみることができます。

21世紀まであと2年となりましたが、郷土茨城を輝かしい21世紀へと発展させていくため、本年も「愛されるいばらき」づくりを着実に進めてまいります。

特に、県の財政が極めて厳しい状況にありますので、全力で行財政改革を推進し、変革の時代に対応できる簡素で効率的な行財政システムの確立や財政の健全化を図ってまいります。

また、北関東自動車道や常磐新線の整備など来るべき交流の時代に向けての基盤づくりや産業の活性化を図るとともに、介護保険導入に向けた取組の推進など本格的な少子・高齢社会に対応する福祉や医療の充実はもちろん、学校教育や芸術・文化の振興にも力を注ぎ、「ものの豊かさ」と「こ

ころの豊かさ」をあわせ持った「新しいゆたかさ」を実感することができる社会づくりに積極的に取り組んでまいります。

さらに、本県の人口は、本年中に300万人に到達する見込みです。これを契機にますます発展する本県の姿を県内外に広くアピールし、地域の活性化と本県のイメージアップに努めてまいりたいと考えております。

県民の皆さん誰もが、「茨城県に生まれてよかったです、住んでよかったです」と感じができる生き生きとした明るい県づくりを進め、21世紀が茨城の時代となるよう全力で取り組んでまいります。

これらの県政を推進するにあたり、厳しい財政状況のもとで効率的な行政運営をしていくためには、的確な現状把握と将来予測が不可欠であり、その基礎資料となる統計の果たす役割はますます重要なものとなってきております。県といたしましては、新しい社会情勢に対応した統計調査環境の整備を進め、より精度の高い統計情報の提供に努めてまいります。また、県民の共有財産である統計を、単に行政機関の利用にとどまらず、1人でも多くの方に关心を持っていただくために統計情報の普及に努めてまいりたいと考えております。

統計行政の更なる推進を図るために、今後とも皆様方のより一層のご協力をお願い申し上げます。

皆様方の一層のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げ、新年のあいさつといたします。